

## ■議事要旨

### (1) 素案について

事務局：瑞穂市第三次健康増進計画素案について説明。

所会長：前回会議での意見を踏まえた素案についてご意見をいただきたい。

溝口委員：前回の骨子案よりも学校での具体的取り組みを掲載いただき、PRにもなり感謝している。18ページの「食育」に関して「栄養教諭」による食育としていただきたい。また、21ページで重複している「・」を削除してほしい。情報提供になりますが、こころの教育に関して、学校ではコロナハラスメントについても問題となっており、県等の教育委員会が作成したコロナハラスメントについても道徳教育で取り上げる予定となっている。

事務局：18ページに「栄養教諭」の表現を追加する。21ページの重複する「・」を削除する。

武内委員：30ページの「必要な児」の表現について、「児」でよいのか。

溝口委員：「園児」としてはどうか。

事務局：「園児」に修正する。

武内委員：30ページの「むし歯・歯周病は糖尿病の原因疾患の1つ」とあるが、「むし歯・歯周病は糖尿病など全身疾患の1つ」であるとしてはどうか。

事務局：ご指摘のとおり修正する。

武内委員：29ページ「9020運動」の表現があるが、この運動は瑞穂市独自の取り組みであることから、「瑞穂市で推進している9020運動」といった、それがわかる表現を追加してはどうか。また、用語解説にも追加してはどうか。

所会長：「8020運動をさらに進めた」といった、一步進んだ取り組みである表現を追加してはどうか。

事務局：表現を追加する。

植屋委員：41ページの壮年期の取り組みで「今より10分多く運動します」とあるが、運動している人もいるので、「運動習慣のない方は」や「運動不足を感じている人は」を追加してはどうか。

事務局：「運動習慣のない人は」を追加する。

名和委員：41ページの青年期の取り組みで「かかりつけ歯科医」があるが、壮年期にも「かかりつけ歯科医」の表現が必要では。

所会長：取り組みの前文に「歯周疾患が進行し、歯を失いやすい時期」とあるので、「かかりつけ歯科医」についても引き続き必要ではという意見では。

武内委員：この19歳～39歳は歯科検診を受けにくい市民にとっては魔の年代といえる。

18歳以下は学校などで歯科検診があり、40歳以上は節目検診があり、この年代は放置されている。その期間に歯周病が進行し、40歳過ぎて気が付くケースを想定していると思う。

名和委員：職場で歯の健診がないこともあり、壮年期にも「かかりつけ歯科医」の表現が必要かどうか。

武内委員：追記が可能なら壮年期にも「かかりつけ歯科医」の表現をお願いしたい。

事務局：歯に関する目標指標にもあるが、現状、歯科検診を定期的に受けている人は36.7%となっており、目標値の70%以上は県の目標を参考に設定したが、県の現状値が56%と市の現状値よりも高い。アンケート結果に基づく数値ではあるが、県の現状値よりも低い実態を改善する目標として設定してる。ご指摘のあった「かかりつけ歯科医」の表現を壮年期にも追加する。

林委員：32ページの市民の行動目標について「未成年者は飲酒を絶対にしないようにします」とあるが「しません」にしてはどうか。アルコールとたばこの行動目標を「しません」という表現で変更してはどうか。

事務局：「健康への影響を知り、節度ある飲酒に努めます。」から「健康への影響を知り、節度ある飲酒に努め、妊婦や未成年者は飲酒しません」に変更する。

所会長：18ページに「1日両手3杯の野菜を食べよう」とあるが「1日両手3杯」とはどういった意味か。わかりにくく感じる。

高田委員：1日の野菜の目標摂取量は350gであり、両手でボールをつくり、そこに乗る野菜がおおむね摂取量になることから、推奨する表現として使っている。

所会長：浸透している表現なのか。グラム数で表現するのがよいのか。どういった野菜の種類なのか私にはイメージがつかみにくい。

高田委員：食生活改善に関して全戸配布したチラシで1日の必要量の表現として使用している。

事務局：手ばかりの表現としてこれまでも使ってきている。

高田委員：岐阜野菜ファーストの取り組みでも手ばかりの表現を使っている。

所会長：わかりにくいので、「1日350g（両手3杯分）」など併記してはどうか。

事務局：表現を検討する。

所会長：19ページ、21ページの成果目標に関して、現状維持の目標に思えるが、何これ以上は難しいという何か根拠があるのか。成果目標は取り組みの目標なので、もう少し改善がみえる目標にしてはどうか。

事務局：19 ページの「ヘモグロビンA 1 c」に関する目標については、第2次の計画では数値目標ではなく「増加しない」という目標であった。県の目標を参考に設定しているが、目標を再検討する。

所会長：瑞穂市の現状値が県より少ないのであれば、もっと少ない目標として、瑞穂市らしい目標にしてはどうか。

事務局：肥満に関する目標を検討する。

所会長：推移をみながら目標値はもう少し厳しい目標にしてほしい。

事務局：市でのメタボの発生率が県よりも高いので、肥満対策に関してはもう少し厳しい値にすることを検討する。

所会長：40 ページの幼児期の取り組みで「様々な人との関わりを持ちながら、一人で悩まないようにします。」とあるが、主語に「親は」を追加してはどうか。

事務局：「親は」の表現を追加する。

高田委員：1日の野菜摂取量の表現について、350g（小鉢5皿程度）という表現もある。

所会長：野菜の種類によって量が異なると思うが、小鉢とは生野菜のイメージなのか。

高田委員：調理済みで5皿であり、その程度を食べるとおおむね350gとなる。

所会長：「小鉢5皿程度」との表現もあるので、「1日350g（両手3杯分）の野菜（小鉢5皿程度）の野菜」に統一する方がよいのでは。

事務局：どちらの表記がよろしいか。

武内委員：食べる側としては調理済みの小鉢の方がイメージしやすい気がする。

砂田委員：小鉢5皿つくらないといけないプレッシャーがあるが、目標としてはわかりやすい。

溝口委員：「両手3杯分」、「小鉢5皿程度」など表記があるので統一する必要があると思う。若い世代で野菜不足の傾向にあるので、そうした層を対象とした表記にしてはどうか。また、現在、市では手のひらでPRしていると思う。

所会長：世代間でイメージの差があるように感じるので、両方にわかりやすい表記にする必要にあるのでは。

中林委員：小学校などでわかりやすく教えて、生活習慣は重要だと教育してほしい。

事務局：第2次の計画の際にも、野菜摂取量をどう表現するか検討した経緯がある。350gだけでは量らないとわからないし、広まらない。一方、生野菜を手のにせる手ばかりは日常的に食べるべき野菜の量をイメージしやすい。健康教室などでは両手3杯の表現を使ってきた。幅広い年齢にわかりやすい表現としたい。

所会長：手ばかりは、中高年、高齢者には理解できない人が多いのでは。また、小鉢5

皿も量ではなく種類をイメージしてしまうので、皆にわかるような表現が必要では。表現については事務局で検討してほしい。

新井委員：歯の検討について、若い世代の歯科健診を重点的に推進してほしい。矯正、歯周病も早く検診することで進行を遅らせることができると思う。市での取り組み「9020運動」のためには、予防が重要であり、高齢期になって歯の健康に関心を持って遅いと思う。野菜の量に関して、健康教室などで「手ばかり」はなじみがある。「生野菜で両手3杯分」、「調理済みの小鉢5皿程度」などがあるので、よりわかりやすい表現にしてはどうか。

以上